

柴田町新図書館基本設計に対する要望等への対応状況について

要 望 項 目	要 望 内 容	対 応 状 況
1 情報交流エリアについて	(1) 情報エリアを無くし、窓際をすべて個人用の閲覧席（30～40席）にすることについて	(1) 新図書館建設に対する住民の思いや要望は様々です。 一つに、「静かな室内で読書や勉強ができるようにしてほしい」という住民の声もあれば、「飲食可能なスペースで楽しくおしゃべりができる居心地の良い場所を設置して欲しい」という住民の声もありました。こうした意見を集約し、調整して設置したスペースが情報交流エリアです。 (2) この情報交流エリアでは食事もできる、居心地の良い交流の場として設置しますが、一方で、窓の外を広場を眺めながら、本が読める読書テラスや新聞・雑誌が読めるコーナー等、図書館機能も兼ね備えたエリアとなります。 (3) なお、情報交流エリアの設置については、新図書館建設検討委員会において、基本理念を検討する際、住民アンケート調査等を踏まえ、普段図書館を利用しない町民が、気軽に図書館を利用出来るきっかけづくりの一環として整備するものです。
2 トイレについて	(1) トイレは基本的に北側の子どもコーナーに移動すべきであること。 (2) また、面積を縮小し、図書館利用者のトイレとすること。 (3) 観光客用トイレが南側にあるのはいかがなものか。	(1) トイレは一般開架エリア北東（令和7年1月18日時点で郷土資料コーナーがあった場所）に移しました。 トイレを児童開架エリアに移すと、不特定多数の方が児童開架エリアに出入りすることになり、児童開架エリアを利用する子どもや保護者が安心して利用することができなくなる恐れがあるからです。 (2) トイレの面積は、想定される図書館利用人数から空気調和衛生工学会作成の衛生器具算定表に基づき、実際の図書館の利用状況を加味して、便器の個数等を設定しました。 (3) なお、トイレは新図書館利用者や飲食をしながら会話を楽しみたいとする町民が主に利用するもので、観光客の利用をメインにしたものではありません。
3 学習スペースの確保について	(1) 学習室・研修室を広くするため、閲覧スペースを南側の窓際まで拡張すること。	(1) 閲覧スペースを南側に拡張すれば、内部面積が増え、大幅なコストアップにつながることで、さらに、風除室2がふさがれ、郷土館との回遊動線がなくなるため、対応は困難です。その分、書架やテーブルの配置を工夫する中で学習室のスペースを広げました。
4 児童開架エリアについて	(1) 北側にあるお話しコーナーと子育て情報コーナーを児童開架エリアの南側の明るい窓際に設置すること (2) おはなし室を季節ごとに、明るい南側窓際に移動すること	(1) 図書館の建設や運営に精通した山崎博樹氏のアドバイスを受けて、おはなし室と子育て情報コーナー、子ども用トイレ・授乳室は1つのゾーンにまとめて配置しました。 おはなし室は、普段（読み聞かせのないとき）はオープンスペースになるように配慮しました。 位置については、子どもが読書に集中できるように、天井が低い北側に配置するとともに、西側の窓から外の風景が見えるようにしました。 (2) なお、現在の柴田町の財政状況の下では、頻繁にコーナーの入れ替えを行うことは困難です。

要 望 項 目	要 望 内 容	対 応 状 況
5 自動販売機の設置について	(1) 自動販売機は入口付近に配置し、必要最小限とすること。	(1) 自動販売機については、西側の風除室1から入って左側に、最大2台設置できるスペースを確保しました。
6 道路の通行止めについて	(1) 利用者の交通事故を防ぐため、図書館と郷土館の間の道路を通行止めとすること	(1) この道路は生活道路でもあり、また、都市計画道路にも認定されておりますので、「交通事故を防ぐため」といっても道路法上通行止めにはできません。 なお、周辺住民の理解が得られ、また、警察の許可が下りれば、イベント当日に一時的に通行止めにする事は可能ではないかと考えています。
7 物価等の高騰に対する対応について	(1) 物価や資材の高騰や労務単価の上昇に対する対応状況について説明して欲しい	(1) 物価や資材の高騰や労務単価の上昇に伴う建設コストの増加分1億9千万円については国に認められました。しかし、詳細に建設コストを積算した結果、さらに1億円が不足したため、内部面積は変えずに、屋根の面積を縮小する等の見直しを行い、コスト削減を図ったところです。